

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472202355	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有限会社 湘南ホームフレンド			
事業所名	ホームフレンド湘南台			
所在地	(252-0805) 藤沢市 円行 1-10-20			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームフレンド湘南台では、ご利用者が自分らしく、生き活きと暮らしていけるよう支援しています。出来ることは自身で行って頂き、機能を維持していけるよう、ご利用者様一人ひとりに合わせたケアに努めています。ご利用者様と共に暮らしてゆく中で、信頼関係を築き、笑顔あふれる、あたたかな雰囲気づくりを心がけています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年2月1日	評価機関 評価決定日	令和4年4月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急江ノ島線や横浜市営地下鉄ブルーライン、相鉄線が乗り入れる利便性の良い「湘南台」駅西口からバスに乗車、「桐ヶ谷」バス停から徒歩数分の住宅地にあります。近くには公園のほか、引地川沿いの遊歩道があり、利用者は日々散歩に出かけています。

<優れている点>

利用者支援では「声かけのケア」を大切に考えています。本人ができることは積極的に関わってもらっています。必要以上の介助は本人のできることを奪うことになるので、職員は見守りや声をかける程度にとどめるようにしています。調理に関する作業全般、掃除、洗濯物たたみ、繕い物など本人の希望のほか、できること、得意なことを生活歴から探り、やってもらうよう働きかけています。支援は職員側の都合ではなく、利用者の思いや本人が起こした行動に対して、まず声をかけ、寄り添うことを管理者は折に触れ職員に話しています。グループホームという小さな社会の中で、利用者同士や職員との関係を互いに気遣いながら、共に暮らしています。

<工夫点>

家族に利用者本人や事業所の様子を知らせてもらい、意見など出してもらうよう、毎月担当者が手書きで個別の手紙を家族に送っています。本人の生活の様子、他の利用者、職員との関わり、体調面など丁寧に綴っています。時には日常を切り取った写真を添えることもあります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ホームフレンド湘南台
ユニット名	1F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共に暮らす。共に学ぶ。共に笑う」という理念のもと、ご利用者様とともに暮らしていく中で、一人ひとりに寄り添い、その人らしく暮らしてゆけるよう支援している。	「共に暮らす。共に学ぶ。共に笑う」という事業所理念は変わらないものとして継続しています。新入職員にはグループホーム（認知症対応型共同生活介護事業所）の特長や支援方法について、理念に触れながら説明をしています。	新入職員が増えている状況があります。事業所理念を再度共有し、実践につなげていくための話し合いの機会を持つことも期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の行事や、近所の公園で行われている週1回の健康体操、月1回の美化活動に参加していたが、コロナの影響で自粛している。状況を見ながら、再開したいと思っている。	開設から16年、自治会や地域と良好な関係性を築いていますが、長引くコロナ禍のため、これまで行ってきた積極的な地域との関わりをすべて自粛しています。ボランティアの受け入れもコロナ収束後の予定としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加し、関わりを持つ事で、認知症を理解し、受け入れてもらえればと考えているが、コロナの影響で機会をなくしてしまっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況、職員について、施設状況や事故等を報告し、意見や要望を聞き、活かせるよう努めている。現在は書面会議という形で行っている。	コロナ禍のため、書面式会議が続いています。利用者の状況や職員について、ホーム内行事について、事故報告など事業所の実際を報告しています。会議メンバーの意見なども聞き、2ヶ月ごとに議事録を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故や、トラブルが起きた際の報告、ルールについて不明なことがある際に連絡している。介護相談員の受け入れを再開している。	藤沢市の介護保険課には、運営推進会議の議事録を通し、事業所の実情を伝えていきます。コロナ禍が続き、藤沢市のグループホーム連絡会も中止になっています。介護相談員の受け入れも再度休止になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	フロア入口は安全面を考慮し施錠しているが、要望があれば解除している。3ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催している。提供しているケアが拘束になっていないか確認し、特にスピーチロックに関しては普段の会議でも話しをしている。	身体拘束廃止委員会は全職員をメンバーとし、3ヶ月ごとに開催しています。法人内の研修もあり、受講した職員は報告書を提出しています。管理者は「声かけのケア」を大切に考え、スピーチロックについては会議の中でも職員への注意喚起を促しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の事例はない。今後も起こらないよう、正しい知識をもち、理解を深めたい。虐待が起こらないよう、職員が余裕をもって働ける環境作りも大事だと思っている。	法人内の虐待に関する研修を受講し、職員は正しい知識を持つことや理解に努めています。職員側の都合でなく、利用者の思いや、本人が起こした行動に対してまず声をかけ、寄り添うことを管理者は折に触れ職員に話しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関する知識が乏しいため、相談にも対応できず、学ぶ機会すら持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでに、ご本人様やご家族の悩みや不安、希望等を伺うようにしている。その上でホームにできること、できないことを説明し、協力をお願いするとともに同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の様子を知って頂くために、毎月手紙を書き送っている。様子を知ること、意見や要望を言いやすい環境になると思っている。普段と違う様子や、不調が見られた際は報告、相談し、対応への要望等を伺うようにしている。	コロナ禍で面会制限が続いていますが、本人や事業所の様子や、意見など出してもらうよう、毎月担当者が手書きの手紙を家族に送っています。時には日常を切り取った写真を添えることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニット会議を開催している。職員が自身の考えや意見を発表しやすい環境作りに努めている。会議以外でも、普段から話しを聞くよう意識している。	多くの意見を吸い上げるため、カンファレンスの日程に合わせ、事前に意見を用紙に書いて提出するようにしています。会議形式でなく少人数で話を聞く機会も設けています。業務分担や業務の流れなど職員の意見から随時改善をしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、職員の実績や勤務状況を評価している。やりがいや目標など、向上心を持てるよう話しをするようにしている。	勤務時間や異動、ダブルワークなど本人の働き方の希望に対応する仕組みがあります。職員の休憩室も設置し、休憩時間でオンオフの気持ちの切り替えがしやすい環境を整えています。勤続年数表彰や誕生日プレゼントなど福利厚生も配慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で様々な研修が予定されている。コロナの影響で動画研修になっているが、各自で予定を立て受講している。	法人の年間内部研修計画があり、スキルの向上に役立てています。法人の新入職員向けの研修のほか、事業所内では1ヶ月ほどかけて先輩職員によるOJTを行っています。ステップアップのための資格取得を奨励もしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と交流をもつ機会はもともと少なかったが、コロナの影響でさらになくなってきている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の前に面談を行い、不安や困りごと、生活への希望を伺っている。入居後も関わりの中で得た気づきを職員間で共有し、信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、不安や困りごと、どのような生活を望むかを伺っている。入居後も生活の様子を伝え、意見や要望を伺っている。協力し合える信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様と面談し、話しを伺い、状態の把握に努め、必要とされる支援を見極め、提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に暮らしてゆく中で、助け合う、協力し合う、支え合う関係性を築けるよう関わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様には、日々の様子を伝えている。相談したり、意見を伺ったりして協力を求めることもある。関わりを増やし、ご家族も支援に巻き込みたいと考えているが難しい。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナの影響で、面会も外出も制限している。オンライン面会や、状況によっては、直接の面会も実施している。	コロナ禍の影響で、面会の実施が不規則になっています。面会が再開した時には積極的に会いに来てほしいことを家族に伝えています。コロナの状況を見ながら、馴染みの美容院や親族の行事の出席など、家族の協力を得て支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を把握、細かな情報も職員間で共有し、利用者様同士が支え合いながら暮らしていけるよう努めている。孤立してしまわないように、間に入り、フォローも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も気軽に立ち寄って頂けるよう、何かあった際には相談頂けるよう話しをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、一人ひとりに寄り添い、言動などから想いをくみ取るよう努めている。意思表示が難しい方でも、それまでの生活や、ご家族様に聞き取ったり、相談をして、本人本位に考えている。	家族の意向や思いを聞き取り、具体的に日々の支援に活かしています。職員は利用者との日々の生活を送る中で聞き取りとは微妙に違う利用者の思いも汲み取り、職員全員で把握した後に「何が食べたい、何をしたい」と言う利用者の思いを支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に日々の暮らしや、サービスの利用状況、サービスを受けた様子をケアマネから聞き取ったりして把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や様子など、記録や申し送りで共有している。ADLの変化なども話し合い、共有し、現状の把握をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成の前に、ご本人様とご家族様に希望を伺っている。カンファレンスの場で、職員の気付きや意見、問題点への対応を聞き、プランに取り入れるようにしている。状態が変わった際にはプランを見直している。	ケアプランは1年で作成し、入居者、家族の希望や状況に基づいて3ヶ月で見直しをしています。毎月のカンファレンスでは全利用者の状態を討議し、モニタリングしています。利用者は落ち着いて生活しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の状態や、ケアの実践に関すること、気づきや工夫した点などを個別記録に残し、職員間で共有、活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族様の状況の把握に努め、要望があれば、極力応じるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握できておらず、活かせていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の内科往診、週1回の歯科往診が入っている。ご家族がそれ以外の受診を望めば、ご家族に付き添いをお願いし、応じている。場合によっては職員も付き添いを行っている。受診の結果については、連絡ノートへの記入や、会議で報告、共有している。	事業所の提携医の訪問診療は歯科診療と週2回の看護師の訪問があります。年1回の健康診断では血液検査も行います。通院が必要な場合は家族の協力を依頼しています。日々の薬の投与に関しては経過観察を職員が行い、医師と情報交換をします。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態や気付きを報告、相談、適切な処置や、必要な医療を受けられるよう、指示を仰いだり、対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となっても、出来る限り早く退院できるよう、ご家族様や病院には情報をくれるようお願いしている。ホームで対応が可能な状態であれば、早期の退院をはたらきかけるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様の状態に変化が見られた時点で、ご家族様、主治医と話し合いをし、ご家族様の希望を聞いている。ホームで出来ること、出来ないことを説明し、確認している。カンファレンスを行い、関わる全員で共有し、ケアに努めている。	入居時に重度化した場合の対応に関する指針を説明して、家族の同意を得ています。急変時に家族の意向変更がある場合は、その都度の対応と変更も行います。マニュアルが整備されており、研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、法人内で研修は行っているが、実践できるかは不安がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間想定で年2回、消防、避難訓練を利用者様も参加して行うようにしているが、実施できていない。地域との協力体制も築けていない。	今年度は施設内での火災訓練を全員で行い、1階の玄関までの避難訓練を実施しました。年度内にあと1回行う予定です。災害時の備蓄品の用意は法人経由で行います。賞味期限にも留意し施設内に3日分を保管しています。	年2回の定期的な避難訓練の継続が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、その方に合わせた声かけや対応をしている、トイレや入浴の誘導、介助には羞恥心にも配慮している。ケアで一番大切なことは声かけだと考えている。	利用者を名前に「～さん」付けで呼ぶ事が多いです。利用者自身で思った事を自由にできるように支援しています。今は希望者がいませんが、以前は飲酒、喫煙する人への支援もしています。行動の禁止をせず、安全の管理に心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思い込みや決めつけたりせず、ご本人様の意思や思いを引き出せるよう関わり、自己決定ができるよう、問い方にも配慮し、選択肢も多く出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の大まかな流れはあるが、一人ひとりが、ご自身のペースで過ごせるよう、制限したりすることなく、自由に過ごせるようにしている。職員は、利用者様優位を意識した対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身で洋服が選べる方には、好きな服を着て頂いている。選択肢があれば選べる方には提案している。選ぶことができなくても、その方の好み、季節感、似合う色などを考えて支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材は業者に委託、昼食と夕食は調理専門の職員が作り、家庭的なものになっている。調理職員が休みの時は利用者様に参加して頂き、一緒に作っている。盛り付けや、食後の片付けも一緒に行っている。月に1回は調理のレクリエーションを行うようにしている	調理専門職員が普通食から刻み食まで個別に対応しています。調理レクリエーションや誕生日のケーキ作り、バレンタインのチョコバナナ作りなど、利用者も一緒に手伝いながら食に関わりを持っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量は記録に残し、職員間で共有している。必要量を摂取して頂けるよう、食事形態に配慮したり、個別に好きな物を提供したり、こまめに提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、促している。自身できない方は介助を行っている。歯科往診で指摘や指導を受けたことは活かせるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄の状態を把握するようにしている。時間を見て声かけ、誘導を行っている。失敗があっても自尊心に配慮し、自信をなくさない声かけを心がけている。	トイレでの排泄を基本と考えています。排泄チェック表を活用し、介助が必要な場合も一人ひとりの排泄パターンやサインを把握しながら声掛けや誘導をしています。利用者の状況によっては職員2名でトイレ介助をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェックを活用し、排便の状態を確認している。水分摂取量の把握、毎日の牛乳提供、適度に身体を動かせる機会を作っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴ができるよう努め、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。入浴前はバイタルを確認し、入浴後は乾燥に注意し保湿を行っている。	自立度の高い利用者には職員が見守りながら、一人で入浴をしています。ゆっくりと入浴しながら職員に日頃の思いを自然に語る時には職員は傾聴し、日頃の支援に活かしています。介護度の高い利用者には2名で介助するなど個々に合わせた対応に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動的に過ごし、夜間に良く眠れるよう、生活のリズムに配慮しているが、一人ひとりの、その時の状態に合わせて、休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情ファイルをフロアに設置しており、職員が確認できるようにしている。変更がある時には、連絡ノートに記入し、共有している。変更後は経過観察を行い、主治医に報告、相談している。誤薬予防のために、職員2人でダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好きなこと、得意なこと、出来ること、出来ないことを把握し、色々なことをして頂きながら、役割をもって頂いている。必要とされる喜びも感じてほしいと考えている。イベントを企画し、準備から一緒に行い、楽しんで頂けるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援は積極的に行いたいですが、コロナの影響でできなくなっている。現在は毎日の散歩以外は行っていない。	天気の良い日は散歩に出かけています。利用者の体調に合わせて、公園や川沿い、近隣などの複数のコースから選び、職員も一緒に歩きます。近隣への初詣やドライブを兼ねた遠出の外出はコロナ収束後に再開予定となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を持っている利用者様はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	かかってきた電話を繋いだり、手紙が届くことはある。ご利用者様から、電話を掛けたい、手紙を書きたいとの要望はないが、こちらから声をかけ、繋がりを大切にしたい支援に努めたい。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の明るさ、温度、湿度には配慮している。装飾も、季節感のあるものを飾るようにしている。	食堂と兼ねるリビングは明るく静かで、趣味の手芸や塗り絵も楽しめる空間となっています。季節を感じる装飾や作品の展示もしています。みんなで参加する体操やレクリエーションの場所にもなり、一角にある和室は洗濯物を畳んだりゆっくりできる場所にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	過ごす場所に制限は設けず、利用者様が好きな場所で過ごせるようにしている。食席やソファ、和室など、利用者様同士で好きなところに座り、自由に過ごされている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心できるよう、居室への持ち込み品は、使い慣れた物をお願いしている。食器類も普段使っているものを持ってきて頂いている。	エアコン、介護ベッド、クローゼットが備え付けです。車イスなどの動線が確保できる範囲で、好きな家具類を持ち込むこともできます。自分で掃除を行う利用者もいます。日当たりの良い、明るく静かな空間になるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は利用者様の動線を考慮し、家具を配置している。場所が分からなくなったりしないよう、目印を付けている。		

事業所名	ホームフレンド湘南台
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共に暮らす。共に学ぶ。共に笑う」という理念のもと、ご利用者様とともに暮らしていく中で、一人ひとりに寄り添い、その人らしく暮らしてゆけるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会の行事や、近所の公園で行われている週1回の健康体操、月1回の美化活動に参加していたが、コロナの影響で自粛している。状況を見ながら、再開したいと思っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事に参加し、関わりを持つ事で、認知症を理解し、受け入れてもらえればと考えているが、コロナの影響で機会をなくしてしまっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用状況、職員について、施設状況や事故等を報告し、意見や要望を聞き、活かせるよう努めている。現在は書面会議という形で行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故や、トラブルが起きた際の報告、ルールについて不明なことがある際に連絡している。介護相談員の受け入れを再開している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	フロア入口は安全面を考慮し施錠しているが、要望があれば解除している。3ヶ月に1度、身体拘束廃止委員会を開催している。提供しているケアが拘束になっていないか確認し、特にスピーチロックに関しては普段の会議でも話しをしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の事例はない。今後も起こらないよう、正しい知識をもち、理解を深めたい。虐待が起こらないよう、職員が余裕をもって働ける環境作りも大事だと思っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関する知識が乏しいため、相談にも対応できず、学ぶ機会すら持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に至るまでに、ご本人様やご家族の悩みや不安、希望等を伺うようにしている。その上でホームにできること、できないことを説明し、協力をお願いするとともに同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の様子を知って頂くために、毎月手紙を書き送っている。様子を知ること、意見や要望を言いやすい環境になると思っている。普段と違う様子や、不調が見られた際は報告、相談し、対応への要望等を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニット会議を開催している。職員が自身の考えや意見を発表しやすい環境作りに努めている。会議以外でも、普段から話しを聞くよう意識している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、職員の実績や勤務状況を評価している。やりがいや目標など、向上心を持てるよう話しをするようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で様々な研修が予定されている。コロナの影響で動画研修になっているが、各自で予定を立て受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者と交流をもつ機会はもともと少なかったが、コロナの影響でさらになくなってきている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の前に面談を行い、不安や困りごと、生活への希望を伺っている。入居後も関わりの中で得た気づきを職員間で共有し、信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、不安や困りごと、どのような生活を望むかを伺っている。入居後も生活の様子を伝え、意見や要望を伺っている。協力し合える信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様と面談し、話しを伺い、状態の把握に努め、必要とされる支援を見極め、提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に暮らしてゆく中で、助け合う、協力し合う、支え合う関係性を築けるよう関わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様には、日々の様子を伝えている。相談したり、意見を伺ったりして協力を求めることもある。関わりを増やし、ご家族も支援に巻き込みたいと考えているが難しい。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	現在はコロナの影響で、面会も外出も制限している。オンライン面会や、状況によっては、直接の面会も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性を把握、細かな情報も職員間で共有し、利用者様同士が支え合いながら暮らしていけるよう努めている。孤立してしまわないように、間に入り、フォローも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も気軽に立ち寄って頂けるよう、何かあった際には相談頂けるよう話しをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、一人ひとりに寄り添い、言動などから想いをくみ取るよう努めている。意思表示が難しい方でも、それまでの生活や、ご家族様に聞き取ったり、相談をして、本人本位に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に日々の暮らしや、サービスの利用状況、サービスを受けた様子をケアマネから聞き取ったりして把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や様子など、記録や申し送りで共有している。ADLの変化なども話し合い、共有し、現状の把握をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成の前に、ご本人様とご家族様に希望を伺っている。カンファレンスの場で、職員の気付きや意見、問題点への対応を聞き、プランに取り入れるようにしている。状態が変わった際にはプランを見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その日の状態や、ケアの実践に関すること、気づきや工夫した点などを個別記録に残し、職員間で共有、活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様や、ご家族様の状況の把握に努め、要望があれば、極力応じるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握できておらず、活かせていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の内科往診、週1回の歯科往診が入っている。ご家族がそれ以外の受診を望めば、ご家族に付き添いをお願いし、応じている。場合によっては職員も付き添いを行っている。受診の結果については、連絡ノートへの記入や、会議で報告、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態や気づきを報告、相談、適切な処置や、必要な医療を受けられるよう、指示を仰いだり、対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となっても、出来る限り早く退院できるよう、ご家族様や病院には情報をくれるようお願いしている。ホームで対応が可能な状態であれば、早期の退院をはたらきかけるようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様の状態に変化が見られた時点で、ご家族様、主治医と話し合いをし、ご家族様の希望を聞いている。ホームで出来ること、出来ないことを説明し、確認している。カンファレンスを行い、関わる全員で共有し、ケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の対応について、法人内で研修は行っているが、実践できるかは不安がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間想定で年2回、消防、避難訓練を利用者様も参加して行うようにしているが、実施できていない。地域との協力体制も築けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、その方に合わせた声かけや対応をしている、トイレや入浴の誘導、介助には羞恥心にも配慮している。ケアで一番大切なことは声かけだと考えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思い込みや決めつけたりせず、ご本人様の意思や思いを引き出せるよう関わり、自己決定ができるよう、問い方にも配慮し、選択肢も多く出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の大まかな流れはあるが、一人ひとりが、ご自身のペースで過ごせるよう、制限したりすることなく、自由に過ごせるようにしている。職員は、利用者様優位を意識した対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身で洋服が選べる方には、好きな服を着て頂いている。選択肢があれば選べる方には提案している。選ぶことができなくても、その方の好み、季節感、似合う色などを考えて支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材は業者に委託、昼食と夕食は調理専門の職員が作り、家庭的なものになっている。調理職員が休みの時は利用者様に参加して頂き、一緒に作っている。盛り付けや、食後の片付けも一緒に行っている。月に1回は調理のレクリエーションを行うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量は記録に残し、職員間で共有している。必要量を摂取して頂けるよう、食事形態に配慮したり、個別に好きな物を提供したり、こまめに提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、促している。自身できない方は介助を行っている。歯科往診で指摘や指導を受けたことは活かせるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄の状態を把握するようにしている。時間を見て声かけ、誘導を行っている。失敗があっても自尊心に配慮し、自信をなくさない声かけを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェックを活用し、排便の状態を確認している。水分摂取量の把握、毎日の牛乳提供、適度に身体を動かせる機会を作っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回以上の入浴ができるよう努め、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。入浴前はバイタルを確認し、入浴後は乾燥に注意し保湿を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動的に過ごし、夜間に良く眠れるよう、生活のリズムに配慮しているが、一人ひとりの、その時の状態に合わせて、休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情ファイルをフロアに設置しており、職員が確認できるようにしている。変更がある時には、連絡ノートに記入し、共有している。変更後は経過観察を行い、主治医に報告、相談している。誤薬予防のために、職員2人でダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの好きなこと、得意なこと、出来ること、出来ないことを把握し、色々なことをして頂きながら、役割をもって頂いている。必要とされる喜びも感じてほしいと考えている。イベントを企画し、準備から一緒に行い、楽しんで頂けるようにしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出支援は積極的に行いたいですが、コロナの影響でできなくなっている。現在は毎日の散歩以外は行っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を持っている利用者様はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	かかってきた電話を繋いだり、手紙が届くことはある。ご利用者様から、電話を掛けたい、手紙を書きたいとの要望はないが、こちらから声をかけ、繋がりを大切にしたい支援に努めたい。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の明るさ、温度、湿度には配慮している。装飾も、季節感のあるものを飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	過ごす場所に制限は設けず、利用者様が好きな場所で過ごせるようにしている。食席やソファ、和室など、利用者様同士で好きなところに座り、自由に過ごされている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心できるよう、居室への持ち込み品は、使い慣れた物をお願いしている。食器類も普段使っているものを持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は利用者様の動線を考慮し、家具を配置している。場所が分からなくなったりしないよう、目印を付けている。		

2021年度

事業所名 ホームフレンド湘南台
 作成日：令和4年 4 月 27 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の定着が難しく、未経験や経験の少ない職員が多い。グループホームの在り方や、支援するにあたり、提供するケアに対しての考え方など共有ができていない。事業所理念の共有と実践するための細かな話し合いの場が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の共有、実践のために定期的な会議を行う。 ・一人ひとりが意見を言える環境作り。 ・定期的な会議の他に、日常的に職員間でケアに関して話し合える環境作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な会議の実施。 ・日頃からのコミュニケーションを大切に、意見が発信しやすい環境を作り、理念に沿ったケア提供が行えるようにする。 	12ヶ月
2	35	災害対策の備蓄品の管理が本部に任せっきりになってしまっており、状況を把握しきれていない。 定期的な訓練も行えない時がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食や備蓄品の管理の把握。 ・定期的な訓練の実施。 ・災害時の対応を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常食や備蓄品の把握のために、一覧表を作成する。 ・定期的に訓練を行う。 ・災害時の対応についての研修を行う。 	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月